

報告

第16回ウィルチェアーラグビー日本選手権大会

北海道中央労災病院せき損センター
中央リハビリテーション部 理学療法士 中村 飛朗

1. ウィルチェアーラグビーとは

ウィルチェアーラグビーは、1977年にカナダで考案され、頸髄損傷、四肢切断、脳性麻痺や神経難病などで四肢に障害を持つ者が行うスポーツで、欧米では広く普及している。競技の激しさから「マörderボール（殺人球技）」とも呼ばれ、同名で映画化されている。

ラグビー特有のボールを前に投げてはいけないルールがなく、バスケットボールのようにドリブル、パスをどの方向にでも行うことができる。車いすごとぶつかるタックルが認められているのが特徴で、選手たちは装甲車のような専用車いすを操作するため、激しい当たりで車いすが転倒することも数多くみられる（写真1）。選手は身体能力やボールを扱う能力により0.5点～3.5点の0.5点刻みの7クラスに分けられる。1チーム4名でコート上の4選手の持ち点の合計が8.0点を超えないように構成される（写真2）。緻密さやテクニカルな要素がありながら、豪快で闘志がぶつかり合うスポーツである。



写真1 激しい当たりがこのスポーツの魅力



写真2 女性プレーヤーも同じコート内で戦う

2. ウィルチェアーラグビー日本選手権大会

全国各地の9チームが2リーグに分かれ予選リーグを各2回行い、勝ち上がったチームのみ参加できる日本最高峰の大会である。今大会は平成26年12月19日～21日に千葉ポートアリーナで開催された。本選の激闘を勝ち上がって決勝に残ったチームは、北海道を拠点とする北海道 BigDippers（以下、北海道）と埼玉を拠点とする BLITZ の2チームである。北海道は日本代表エース池崎大輔、アジアパラで得点王に輝いた和知拓海が所属しているが、日本選手権大会では過去最高3位とこれまで決勝の舞台に進出したことのないチームである。対する BLITZ は昨年度の優勝チームであり、日本代表でチームのエースである島川慎一や同じく日本代表である菅野元揮、現日本代表ヘッドコーチ荻野晃一を擁し、過去6回の優勝を誇る強豪チームである。

北海道はこれまで日本選手権大会予選リーグを含め対戦して一度も BLITZ に勝っていない。この2チームは今大会でも1度対戦しているが、その試合は延長戦までもつれる接戦になった。延長戦残り時間9秒、50－50の同点場面で、再延長にもつれ込むかと思いきや、島川選手の疲れを見せない走りにより、池崎選手を抜き見事ゴール。このゴールが決勝点と

北海道中央労災病院せき損センター
〒072-0015 北海道美唄市東4条南1丁目3-1

なり 51 - 50 で BLITZ が北海道を破ったのである。

決勝戦も白熱した試合が行われるものと予想された。先に仕掛けたのは北海道だった。北海道は島川選手を走らせないようにディフェンス中心のラインナップに変更した。その戦略がうまくはまり、序盤から島川選手の動きを封じ込め、ミスを誘いボールを奪うことに成功した。第 1Q を 16 - 12 で北海道がリードをする。第 2Q では BLITZ が徐々に北海道のディフェンスに対応していくが、北海道のエース池崎選手を止めることができないまま点差を縮めることができず、第 2Q も 30 - 22 で北海道が優勢に折り返す。その後も BLITZ は追いつくものの池崎選手の走りを止めることができず 56 - 44 で北海道が BLITZ を制し、悲願の初優勝をつかんだ。

そして、今年も日本選手権大会予選リーグが 6 月に横浜と千葉、8 月に高知と兵庫で開催される予定である。また、今年度のウィルチェアーラグビー日本代表は多くの国際大会に参加する。ジャパンパラ競技大会が 5 月 22 日 - 24 日に開催されイギリス・ニュージーランド・デンマークといった世界の強豪が参加予定である。また、今年国際大会の中で最も重要なリオパラリンピックの予選が 10 月 29 日 - 11 月 1 日に開催され、いずれの大会も千葉ポートアリーナで開催される。世界基準の迫力を生で感じとれるまたとない機会であるため是非見に来てほしい (写真 3)。



写真 3 日本 vs 世界 迫力の試合が観戦できる

3. 研究や用具開発について

ウィルチェアーラグビーの研究については国内ではほとんど行われていない現状がある。車いす駆動動作に関して大半は他の障がい者スポーツや日常用車いすの駆動動作である。国際的な研究ではウィル

チェアーラグビーにおけるスポーツ後の呼吸や循環等の生理学の研究や、スピードや駆動回数を検出する装置の開発等を実際に現場のアスリートが行っている研究が多数投稿されている。しかし、今年度より文部科学省はメダル獲得が期待される競技に、スポーツ医・科学等からの専門的かつ高度な支援を実施し、競技力の向上を図る「マルチサポート事業」を行っており、世界ランキング 4 位であるウィルチェアーラグビーも選ばれている。文部科学省の支援により、障がい者スポーツは今後ますます発展していくと思われる。

用具開発については、オーストラリアチームには試合中にベンチの選手がウォーミングアップできるローラーを使用しており、試合に途中からでもトップスピードで出場できる。また、頸髄損傷者は汗が出ないため試合中にコンディションを落としてしまう選手がいるため、即時的に熱を放散する用具の開発等、競技や障害に合わせた用具の開発はニーズがあると感じている。自分は理学療法士として病院やチームに関わっているが、エンジニアの方たちが介入できる場所はたくさんあると感じている。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けてもっと日本のパラスポーツに多くの方が関わり、熱く盛り上がることを期待する。

(写真：阿部謙一郎)

【参考文献・URL】

- 1) 日本ウィルチェアーラグビー連盟 HP
<http://www.jwrugby.com/>
- 2) 文部科学省：マルチサポート事業戦略
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/07/attach/1295999.htm
- 3) Mason B: Comparing the activity profiles of wheelchair rugby using a miniaturised data logger and radio-frequency tracking system., Biomed Res Int, 348048, 2014
- 4) Black KE : Fluid and sodium balance of elite wheelchair rugby players, Int J Sport Nutr Exerc Metab, 23(2), 110-8, 2013
- 5) Goosey-Tolfrey VL : Field-based physiological testing of wheelchair athletes, Sports Med, 43(2), 77-91, 2013